

環境学研究科（博士前期課程）各専攻における人材養成の目的

【社会基盤環境学専攻】

本専攻では、人間活動の主要な舞台である都市と農村を対象として、社会経済活動とそれを支える開発が環境に及ぼす影響を明らかにするとともに、環境と調和した地域社会を実現していくための社会基盤と空間の創出、並びに大気、水、土壌、生物等の資源の持続的利用や循環の維持管理に関する計画と技術の発展を担う人材を育成する。

【生命環境学専攻】

本専攻では、ヒトを含めた生物環境を構成する生物のヒエラルキーを保全し、かつ豊かにするためのバイオサイエンス、食や環境とヒトの健康や安全・安心の社会を構築するための科学について、農学、化学、倫理学、統計学、医学を含めた学際的視点を生かしながら、問題設定と解決に向けた研究や技術開発に取り組むことができる人材を育成する。

【資源循環学専攻】

本専攻では、環境負荷を小さくし、資源の枯渇を抑制できる持続可能な社会の構築を目的として、物質・資源のリサイクルの促進、廃棄物の最適管理、より安全で適切な最終処分法の開発等に関するマネジメントの確立、資源枯渇の回避のための物質エネルギーの高効率有効利用・変換技術の開発、グリーンケミストリー技術の開発、さらには環境保全技術の開発等について、問題設定と解決に向けた技術開発等の能力を備える人材を育成する。

環境学研究科（博士後期課程）各専攻における人材養成の目的

【社会基盤環境学専攻】

本専攻では、人間活動の主要な舞台である都市と農村を対象として、社会経済活動とそれを支える開発が環境に及ぼす影響を明らかにするとともに、環境と調和した地域社会を実現していくための社会基盤と空間の創出、並びに大気、水、土壌、生物等の資源の持続的利用や循環の維持管理に関する計画と技術について、高い見識と問題解決能力を有し、国際的に活躍できる人材を育成する。

【生命環境学専攻】

本専攻では、ヒトを含めた生物環境を構成する生物のヒエラルキーを保全し、かつ豊かにするためのバイオサイエンス、食や環境とヒトの健康や安全・安心の社会を構築するための科学について、農学、化学、倫理学、統計学、医学を含めた学際的視点に基づく高い専門性と問題解決能力を有し、国際的な場で研究や技術開発に取り組むことができる人材を育成する。

【資源循環学専攻】

本専攻では、環境負荷を小さくし、資源の枯渇を抑制できる持続可能な社会の構築を目的として、物質・資源のリサイクルの促進、廃棄物の最適管理、より安全で適切な最終処分法の開発等に関するマネジメントの確立、資源枯渇の回避のための物質エネルギーの高効率有効利用・変換技術の開発、グリーンケミストリー技術の開発、さらには環境保全技術の開発等について、高い専門知識と研究能力を有し、国際的に活躍できる人材を育成する。